



永世名人誕生!その名はハルク

同一タイトルを三期取ると『永世』の称号が与えられる。前人未到だったこの称号を、ついにハルクが手にした。いまにも泣き出しそうな曇天の11月10日(日)板橋平和公園で第十三期名人戦ファイナルが行われ、ハルクが決勝トーナメントを勝ち上がり、現名人と一さん成田、予選1位ダーリン立川との決勝巴戦を制し、実力制名人制になって以降、三度目の名人位獲得となった。

前代未聞、決勝進出知らずベーゴマ忘れる

自分が決勝トーナメントに出場することを知らなかったというのだから、呆れてものが言えん。「後藤さん、ベーゴマ貸してー」とあわてるハルク。「後藤さんのベーはダメ、それならオレのを貸すよ」とギャオス。「会長のベーならいいよ」とみんな。するといきなりベーを磨りなおしにかかるんだから何とも失礼なヤツだ。しかし勝負はわからないもの。そのベーでハルクが勝つわ勝つわ、鉄人後藤、平井おやぢ、長州中郵を次々倒し、決勝巴戦出場を決めてしまったのだ。「このベー、いいなあ」だと。このベーいいなあじゃねえっての(怒)。

と一さん成田、ダーリン立川、実力出せず

この日の主役になったハルクの勢いは止まらない。乗ると手がつけられない男になるのだ。もともと作戦なんてあまり考えていない。今までも勢いだけで10個ものタイトルを取ってきたのだ。決勝トーナメントで、すでに流れがハルクのものになっていたのだろう。すっかりハルクのペースに巻き込まれてしまったと一さんとダーリン、完全アウエーな雰囲気の中、ともに1勝するのが精一杯、実力を発揮する間もなく、ハルクに何と5連勝を赦してしまったのだ。これでは二人とも苦笑するしかなかっただろう。

平成21年の名人位獲得以来、4年もの長い間ブランクが続いていたハルクだが、このビッグタイトル獲得は、新たな飛躍のきっかけになるかも知れない。おめでとうハルク、初永世は素晴らしいの一語に尽きる。しかし、やっかいな男を乗せてしまったものだ。なお、永世の記念品は、タイトルベーを鉄人後藤オリジナルキーホルダーに仕上げてもらおう予定だ。



つぐみ、ハルク おめでとう!



女流名人はつぐみちゃん、子ども王はなし

女流名人は三期連続でつぐみちゃんだ。去年は予選1位で巴戦出場、一昨年は決勝トーナメント優勝で巴戦出場だったが、今回は長州中邨の前に決勝トーナメントベスト4で涙を吞んだ。すでに4つのタイトルを取っているつぐみちゃん、来年正月にはグラチャンの永世がかかっている。やっぱり女流王の枠には収まりきれないな。また、子どもの部では決勝戦進出者がいなかった。いまは子どもの世代交代時期なので、早くオジサンたちを脅かす子どもが現れてほしい。上四や中台のみんな、がんばろうねえ。



ほんこん

まみい・本魂六角ペアがV

今回から装いも新たに『みんなとペアマッチ』に変身したペアマッチ。予選で同一ブロックのメンバーみんなと1回ずつペアになる新方式だ。すでに寺子屋で実験済みなので、盛り上がることは間違いない。そして、予選通過12名による決勝戦は、抽選で6組のペアになり優勝を争うのだ。幸運にも決勝に進出したのは、ハルク・ダーリン、つぐみ・ルパン、まみい・六角、後藤・タツヤ、はるみ・ソーちゃん、松ちゃん・奥田パパの12名だ。

予想ではハルク・ダーリンペアと後藤・タツヤペアに人気が集まったが、結果はさにあらず、一周終わった段階で、まみい・六角ペアとはるみ・ソーちゃんペアがリードで折り返す。しかし、二日目に入ると、はるみ・ソーちゃんペアは伸び悩み、まみい・六角ペアが順調にポイントを稼ぎ、大差をつけて優勝を飾った。本魂六角は4年ぶりのタイトル奪取、まみいは今期二度目のタイトル獲得となった。



本魂六角、まみい おめでとう！

ガチホンコは新鋭けんたが初勝利

参戦間もないけんたがガチホンコで優勝し、両手に一杯のペーを手に入れた。ジョージ、ギャオス、上浦パパ、松ちゃん、本魂六角を次々破るといふ快挙。怖いものなしというのは強いね。またいっしょに遊びましょう。



バロンドールもハルクがトップに

名人戦で優勝し、ペアマッチでも決勝に進出したハルクが、バロンドールでトップに躍り出た。2位ルパンとの差は4ポイント、3位ギャオスには5ポイントの差をつけた。残すは来月の干支王戦のみ。ここでハルクが決勝トーナメントに出場すれば、2位ルパンが優勝しない限り追いつかない。土壇場に来て一気にごぼう抜きハルク、主役が交代だ。



けんた おめでとう！



きめてやるぜっ！